

「元気じゃけんひろしま 21 (第2次) 推進会議」全体会議 会議録

- 1 開催日時 令和6年3月19日(火)19:00～20:30
- 2 開催場所 広島市役所2階 講堂
- 3 出席者 出席者名簿のとおり(委員25名、オブザーバー8名、関係課8名)
- 4 傍聴人 0人
- 5 議題
 - (1) 次期健康づくり計画「元気じゃけんひろしま21(第3次)」について
 - (2) 「元気じゃけんひろしま21(第3次)」の推進体制について
 - (3) 令和6年度「元気じゃけんひろしま21(第3次)」のスケジュールについて
 - (4) 「元気じゃけんひろしま21(第2次)」推進に係る取組について
- 6 発言要旨

区分	発言要旨
事務局	【議題1、2、3】 ・資料1～資料3に基づき説明
座長	ただ今の事務局説明を受け、意見や質問はないか。
委員	意見・質問無し
座長	【議題4】 はじめに、委員からの各団体の取組紹介の前に、委員から本日配布した資料について紹介いただきたい。
委員	中国新聞では、健康づくりに関する記事を日々出すことができるように心がけている。 その中でも、読者から反響が大きい記事の一つが、本日配布した尾道市で一人暮らしをしている103歳の石井哲代さんに関する記事である。石井さんの素晴らしいところは、心も体も健康で、地域で暮らしているところで、時々、体の調子が悪い時に弱音を吐くこともあるが、「自分を機嫌良くするのは自分しかいない。」と自分で自分を怒ったり、なぐさめたり、励ましたりしながら、豊かな暮らしを送っている。人生100年時代を生きるモデルを見つけたと感じている。今後も長く取材を続けていきたい。
座長	次に、本日出席の委員から、参考資料2に記載している取組のうち、特に力を入れている取組について紹介いただきたい。
委員	次世代については、学校医委員会以外に運動器検診にも力を入れて運動器検診検討委員会を開催している。また、在宅医療の場において、主治医が24時間対応することが大きな負担であることから、主治医が対応できない場合には、バイタルリンクを活用し、副主治医が対応できるような体制を構築している。
委員	医師を対象とした研修会を開催したり、乳幼児健診、妊婦健診、育児講座への医師派遣、Web講演会を実施している。コロナが2類から5類に移行し、特定健診等の受診者も増えてきたため、しっかりとやっていきたい。
座長	次世代への取組として7月19日に予防接種講習会、12月20日に学校医部研修会を開催し、HPVワクチン、アレルギーについて講演を行っている。 また、救急体制の充実・安定稼働として、広島地区病院群輪番制病院運営協議会・連絡会議合同会を12月22日に開催し、今年に入り、救急体制あり方検討委員会を開催している。
委員	歯科衛生士を対象とした研修会や、「いい歯の日キャンペーン事業」の実施、広島市母子保健事業への協力、意識啓発事業として「歯ブラシと歯磨剤の選び方」のリーフレットを作成し、配布している。また、訪問歯科衛生士の実態調査結果の検討や人材育成事業も実施している。

委員	今年度、ひろしま糖尿病栄養食事サポーター派遣事業という取組を実施した。この事業は、当会の栄養ケアステーションに依頼があった、管理栄養士等が配置されていないクリニックに、外来の栄養食事指導や在宅訪問の栄養食事指導を実施するものである。 また、高齢世代への取組として、8月4日の「栄養の日」に、今年度初めて「低栄養予防のための間食」を紹介し、栄養測定や啓発事業を行った。令和6年度は、各支部で展開できるように計画している。
委員	市内の小学校、中学校、高等学校で命の大切さと心と体の話を助産師中心に派遣し、出前授業を実施している。中学校での実施が多いが、県内で1,550人受講している。 また、コロナ禍以降、高齢者施設等において、感染症の対応に困ったという声を受け、感染管理認定看護師を派遣し、施設訪問や研修会の開催を続けており、拡大していく予定である。
委員	やく薬フェスタや各区民まつりでのがんや循環器疾患、糖尿病等に関する啓発活動や健診受診勧奨、ハイリスクアプローチによる指導を実施している。 また、次世代や働く世代に対しては、薬物乱用防止に関する活動や啓発CMを放映している。さらに、「2023 薬局へ行こう」プロジェクトとして、処方箋がなくても薬局へ相談を受ける取組を4月、10月に実施している。
委員	口腔衛生状態や口腔機能と全身の関係性について市民に広く周知するため、リーフレットの作成、配布、市民公開講座等を実施した。また、全世代において切れ目のない指導や健診を目指し、節目年齢歯科健診等の受診率の向上に力を入れている。 「8020」の達成率も非常に向上してきたが、人生100年時代を見据え、健康寿命をいかに延伸するか、オーラルフレイルの予防というところに力を入れていきたい。
委員	当センターは、県内のすべての企業を対象に、働く世代の心と体の健康づくりを支援している。 コロナ禍以降は、働き方も健康管理方法も大きく変化しているため、積極的に健康経営に取り組むことができるよう、健康寿命の延伸に向けて支援してきた。中でも女性の労働者と高齢労働者の増加の観点から、今年度から転倒・腰痛災害防止への取組を強化している。 また、仕事の強いストレスにより発症する精神障害等の労災認定者数は、4年連続で過去最高を更新しており、働き方改革をより一層進め、事業所内のメンタルヘルス対策を強化する必要がある。そのため、メンタル不調を起こさない予防の取組と、メンタル不調者の早期発見や改善に向けた取組が行われるよう、人事労務担当者等に対して、研修の機会を増やして実施した。本計画の目標達成のためには、働く世代からのアプローチを行い、地域保健と職域保健の連携がより重要となると考えている。
委員	化学物質による健康障害防止対策について法令の改正があったため、事業者の説明を行い、取組を進めた。また、過重労働による健康障害防止対策について、時間外労働の抑制をお願いしている。 労働災害で最も多い事故が「転倒」であるが、特に高年齢労働者の事故が多くなっている。これまでは設備の改善等を求めてきたが、体力づくりによる転倒災害防止についても要請しているところである。
委員	今年度は、健康経営の普及、「ひろしま企業健康宣言」の推進に力を入れている。最新のエントリー数は、2月末時点で4,709社(今年度新規722社)である。健康経営について様々な広報を行っているが、今年度は各支部の保健指導者が、特定保健指導で事業所を訪問する際、対象者の面談だけでなく、事業主等に健康経営や健康宣言等の健康づくりについて伝えるようにしている。来年度も力を入れていきたい。

委員	今年度は、令和6年度からの保健事業の実施計画である第3期データヘルス計画の策定の年であり、保健事業支援・評価委員会を通じて第2期計画の最終評価や、それを踏まえた第3期計画の策定を支援した。支援した全ての計画に「健康寿命の延伸」が目標に掲げられており、生活習慣病の発症予防と重症化予防に取り組むという内容になっている。 来年度は、策定された計画に沿って保健事業が効果的に実施できるよう、国保・後期高齢者ヘルスサポート事業をはじめ、担当者や専門職に向けた研修会の開催など様々な保険者支援に努めたい。
委員	当協会は住民の精神的健康の保持・向上を図ること目的とし、精神保健知識の普及啓発や、関係者への研修等を行っている。 今年度は3つの研修会を開催している。コロナ禍のため、研修ができなかったり、縮小開催の時期があったが、ワークショップ等は顔を合わせて様々な事例について意見交換することに意義があるため、全面的に集合研修で開催し、研修によっては遠方の方も参加しやすいよう、Web参加も可能としている。来年度も同様の研修を継続する予定である。
委員	広島市の認定を受けて、食品衛生責任者の養成講習会を開催している。講習の中には、感染予防を含めた公衆衛生の内容も含まれており、「元気じゃけんひろしま21協賛店」の募集や、飲食店における喫煙ルール及び「わ食の日」のチラシを受講者全員に配布している。今年度は26回 1,634 人が受講している。
委員	がん検診受診率向上のため、がん検診と特定健診の同時開催を87回実施し、夜間の集団健診を延5会場で実施しており、継続したいと考えている。 また、骨粗しょう症検診受診率向上を目指し、要精検者には当日の精検を実施し、医療機関へのスムーズな橋渡しを行っている。健康科学館での講座はコロナが5類に移行したこともあり、徐々に参加者が増えている状況である。
委員	これまで「身体活動指針 2013 及びアクティブガイド」の普及啓発を行ってきた。令和6年度からガイドラインが改定されるため、今年度はその準備期間として指導者のスキルアップを図っている。 また、糖尿病重症化予防対策検討委員会において、かかりつけ医が医療の中で運動指導を行えるよう、運動指導士が支援したり、医療費控除の対象となる運動施設の紹介を積極的に行いたいと考えている。 さらに、ウォーキングのイベントや、企業に向けた健康経営アドバイザーによる運動支援、ロコモティブシンドローム予防、フレイル予防のため、各保健センターや地域包括支援センター等と連携し、運動指導を行っている。
委員	次世代については、広島市内の小学生から高校生を対象に、1年間を通じて人と交流することによって、たくましい心と体を作ることを目的とした授業を行っている。働く世代については、広島市ウォークラリー大会の開催の他、フラワーフェスティバルやスポーツレクリエーションフェスティバルにおけるブースの設置やスタッフの派遣を行っている。高齢世代については、ねんりんピック広島予選会を担当したり、地域の健康教室やサロンに指導者派遣を行っている。 また、資格者の養成としては、広島市社会福祉協議会と連携し、全区の高齢者サロンの運営者の研修を行っている。
委員	研修会を毎年行っているが、今年度は広島県医師会が幹事団体となり、「禁煙指導・支援の基本のき」と題して、オンデマンド方式でまもなく配信予定である。 また、スモークフリーアドバイザーの養成を目的としたスモークフリーピンバッジを関係者や講演会に参加された方に提供しているため、声をかけていただきたい。
委員	スポーツ推進員は各小学区に2～4人委嘱されており、健康のための運動や各種スポーツの実施・指導、スポーツ行事の運営を行っている。推進員の資質向上を図るため、リーダー研修会・区別伝達講習会を実施している。毎年内容を変えており、今年度は「ラジオ体操」と、1度に2つのことを行う「デュアルタスク体験会」を実施した。また、実務研修として「普通救命講習Ⅰ」を2年に1回実施している。

委員	東区における取組を中心に紹介することとなるが、今年度特に力を入れているのは、地域防災に関する取組である。常に言っているのが「日常にプラス防災を」をテーマに、どのように命を助けるか、学校、大学等と協議している。
委員	健康教室や健診サポーター養成講座を開催し、自らが知識を得ると同時に、地区に戻ってから住民等に健診の受診勧奨を行うなど、健康寿命の延伸を目的とした活動を行っている。 環境整備においては、地域一斉清掃や門前清掃、環境講座、清掃施設見学等を行っている。
委員	女性の検診受診率が低いため、健康寿命の延伸を目指し、検診の重要性を伝える研修会を行っている。また、地域に根差した女性団体としての特性を活かし、女性の視点から地域と人とのつながりや支え合いを深めるよう努めている。
委員	今年度はコロナが5類に移行し、次世代については、健康相談室やオープンスペースを人数制限や予約をすることなく実施でき、親子交流や相談の機会となった。 高齢世代については、65歳以上の状況調査を行ったところ、コロナが落ち着いたものの巣ごもりしている人が多く、体力低下や人との交流が少なくなった人が増えていた。100歳体操やサークル活動等に参加しなくなった人も増えている印象であるため、地域での見守りを強化し、地域包括支援センターや社会福祉協議会と協力して、見守り事業の登録等に力を入れている。
座長	続いて、市の取組について事務局から報告いただきたい。
事務局	参考資料3に基づき報告
東区	広島市では、地域団体や関係機関と連携し、地域の主体的な健康づくりを推進している。 東区では、新型コロナウイルス感染症の影響により、屋内のサロンが活動困難となったことから、感染対策のしやすい屋外でのウォーキング活動を拡充している。運動する機会が増えるだけでなく、人との交流の楽しさを感じることで、個人の健康観が高まり、地域全体が健康維持に努めることができる取組となっている。また、地区体育協会や社協、地域のボランティアなど、様々な関係機関が連携することで、全ての人々が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる地域づくりへと発展している。
座長	最後に、副座長の梯委員から総評をいただきたい。
副座長	各専門領域で行われている様々な取組を聞かせていただいたが、それぞれの成果が出つつ、第3次計画につながっていると思う。 また、中国新聞の鈴木委員から紹介のあった石井さんのように、100歳を超えても元気に暮らしている方がいるというのは目標になる。これから12年間という長い期間ではあるが、この第3次計画が、100歳を過ぎても元気で暮らしていくことにつながるよう、期待したい。各分野の御協力があればきっと近づいていけると思う。
事務局	本日の議事は全て終了した。 「元氣じゃけんひろしま21(第3次)」推進会議委員の推薦等のについては、後日団体宛に依頼させていただく予定としている。 委員の皆様においては、これまで「元氣じゃけんひろしま21(第2次)」の推進に多大なるお力添えをいただき、感謝する。引き続き、健康づくりの取組の更なる推進に御協力いただきたい。